

会員数(56・7現在)

逗子地区 150名

葉山地区 261名

大船地区 58名

合計 469名

吟道月報

在団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心 会 発行

56・7月

第108号

発行 者

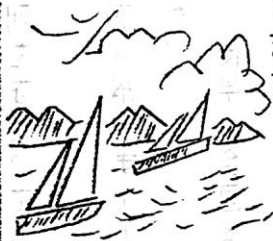
根岸 岳 萃
編 集 愛 岳
中 村 山 雪 風
杉

私と詩吟

堀内支部A組 佐藤 湧風

昭和四十四年十一月頃だったと
思いますが、長野淑風さんに誘われ
て最初詩舞に入会しました。それ
から半年位たって詩吟にも入らな
いかと云われて長野さんといっし
よに堀内教場へ行ってみました。
先生は根岸先生と小峯先生で入会
当時会員は二十数名だったと思
います。先輩の吟を聞いてはいるうち
に若い頃川中島、九月十三夜等を
聞いた事が走馬灯の如く頭の中を
馳け巡りました。その時私も詩吟
を始めようと決心し、初めてから
早々十二年となりました。今はた
だ古くなったというばかり。私
が入った頃の堀内教場には元気の
よい先輩がいてとてもその人達は

きびしくこわかったのですが今はと
てもあの頃の事が懐かしく、一番充
実していたのではないかと思えます。
二年三年と経つうちに詩文に惹か
れて行く自分に気がつきました。詩
文にはそれだけ作者の魂があり、又
複雑でありそれに対して舞もありま
すので、私は人生の生き甲斐を感じ
ている次才です。これから吟の道
を学び、人格を高めて行きたいと思
いますので諸先生はじめ、吟友の皆
様よろしくお願ひ致します。



◎昇段・昇伝

次の方々がそれぞれ昇段、昇伝認許されました、おめでとうございます。

九段：井沢朝岳、小峰枝岳

皆伝：鈴木萃岳

奥伝：中村朗風、大貫元風、益子順風

橋本果風、小峯俊風、加藤清風

田辺伯風、井上尚風、井沢鈴風

小峯紅風、飯田愛風、鈴木清風

鈴木清風、矢島琴風、石井峯風

森野厚子、沼田隆風

◎第七回全国指導者並に選抜者吟道大会

七月十二日(日)九段会館ホールに於て盛会の中に行われ、横須賀才二地区指導者代表として、碩心会から加藤圭岳先生が出吟されました。当日二十名あまりの方がこの大会の吟を聞きに行かれました。十時開会というのに私達も混雑を予想して九時頃会場に着いたのですが

各からの熱心な方達がもう行列をなさっているのにびっくりしました。

開場入口で手渡されたプログラムが今までと変っているのが気をひきました。

1.前半が奥伝以上の指導者吟、後半が全国各地から送抜された推薦吟詠

2.吟題はすべて新校本一巻の中の絶句もの、吟詠順序は伝段位毎に校本の頁順に吟じられる。例えば風雅号へ奥伝、七段、八段

3.右方法によるので同じ吟題がつどく事が多いが頁順に吟ずるので序列は二の次になる。

後半の推薦吟詠はさすがとしかいようがなく、私を多に感動させてくれた。特に中伝

級の若い人達が精いっぱい感情をこめて吟ずる姿に涙が頬を伝った。若い男性が続けて訣

別を吟じたが二題とも特に私を感動させてくれ、できないながらもいつの日にか私も吟じて

みたいと思えました。久しぶりに心を揺さぶ

る吟に接する事ができ、東京まで出かけた甲斐があったと満足いたしました。(愛岳)

詩吟とピアノはよく似合う …… 平山忠純

◇メロデーを重視・世界の歌曲へ◇

詩吟は言うまでもなく、詩歌と吟誦するものだ。ほとんどの場合は漢詩だが、和歌、俳句、現代詩などのこともある。伴奏のないのが原則だが、現在では尺八や琴などの伴奏がついたりする。また剣舞は詩吟に合わせて舞う。私の詩吟の会は、さういふ伝統的な詩吟のイメージとがらりと変っている。古典吟を尊重するのは勿論だが、現代にふさわしいものにしてよと、この日本舞踊やバレエを伴っていたり、日本歌曲や歌謡曲の一部を詩吟にしてみたりと、じつにバラエティーがある。そして伴奏はピアノ、こつこつピアノの詩吟の試みを始め、十三年になる。ある日見知らぬ女性が私の主宰する歌謡スタジオを訪れ、こんな事を言った。「十年ほど吟詠をやっているのですが、思うように声が出ないので、発声を教えて下さい」

私は本当にびっくりしてしまった。というのも、戦後、詩吟などというものはすっかり姿を消してしまっていると思ひ込んでいたからである。今日吟界では詩吟を吟詠と呼ぶこともその時始めて知ったような次第である。そして驚くとも、大いに懐しさを覚えた。今年五十八になる私が子供の時分は、軍国主義下の士気を鼓舞するために、誰もが声を張り上げ吟じていたという風だったからである。私は小さい頃から歌が好きだったが、当時中学校には音楽部などなく、仕方がないので詩吟部に入り、部長を務めたりしていた経験さえあるのである。

NHKを六年でやめてその後は松竹ミュージカルの舞台に立った。その間詩吟に關係したのは東京浅草の常盤座で赤ん坊を抱きながら「葉見行」を吟じたくらいはかない。そして芸界から足を洗って歌謡スタジオを開いていたのであるが、その女性が訪ねてくるまで詩吟の事はすっかり忘れていたのである。

その女性の詩吟を聞いて、またまた驚いてしまった。首々頰に青筋を立てて、真っ赤な顔をしてうなっているではないか。のどをつめるので、高、中、低音のバランスがくずれていゝ。私は「発声」「音程」「表現」の歌唱三原則を掲げて指導して来たが、そのどれもが悪いのだからとも聞けたものではない。これが十年も詩吟をやつて来た人の吟だろうか。

それがきつかけで、詩吟は今どうなっているのか、自分なりに研究を始めた。詩吟の人口は三百万とも四百万とも言われていた。なるほど色々な会場で大会が開かれていた。各流派やレコード会社主催の詩吟大会に手当り次第に足を運んだ。(以下次号に続く)

へひらやまたたずみ声楽家、日本歌曲吟詠会会長。以上は日経新聞から転載させていただきました。一部削除した所もありますので、急の為)

短歌 風早支部 長島玉山

温習会終えて々すらぎ雨の道

栄ある今日を吟友と語りて

雨々みて色増し咲けり紫陽花の

大輪の花くす玉の如し

(入) △△

(逗子△支部) 和田紀美子 逗子市逗子九一三五

○四六八一七一一五九六六

(ニク) 和田弘子

(シ) 佐原正夫

○四六八一七三一一六二五

(ク) 小峰高治

○四六八一七三一一七四七四

(ク) 小峰更枝子

(退) △△

70 黒田高風(堀口) 中村喜美子